

4 級 大問 1 ～大問 4 出題ポイント 総まとめ

2012 年度春期～2018 年度冬期 —「進化する」過去問・解説—

☆独検受験の最善の対策は、過去数年間の過去問をしっかり読み解くことでしょう。しかし、何年にもわたって解説書を購入することは、コスト・パフォーマンス的に少し苦しいところがありますね。したがって、不十分な形ですが、少しでも皆さんの受験の役に立つならばと思い、2012 年度から 2018 年度までの、大問 1 から大問 4 までの、学習すべきポイントを添付冊子としてまとめてみました。

☆ただし、本体の解説と同じではあまり面白くありませんので、少しばかり「裏技」的なヒントも含めて、自由に書かせてもらいました。設問は、基本的にすべて 4 択問題なので、設問文の一部を見る**だけ**で解答できることもあるでしょうし、また、「最も正解らしき選択肢」が 1 つわかればよいとするならば、選択肢から不適當なものを外していく**消去法**という方法もあります。

☆もちろん、一步一步しっかり勉学を積み重ねるのが「王道」です。私たちもそれを望みますが、しかし、何かと暗い世の中 … 独検くらい少し遊び心があってもよいのでは？

☆この冊子が、皆さんが少しでもゆとりをもって楽しく受験できる手助けになれば幸いです。「想像力」も「勘」も十分に実力の内！楽しみましょう！

2019 年 1 月

著者

1 大問1 音声 (本書 17 頁～26 頁)

大問1は、主に、**音声**に関連するものです。具体的には、①つづりの読み方、②アクセント、③母音の長短、④文アクセントが出題対象になります。

1.1 つづりの読み方

例えば、以下の選択肢の中で、下線部の太字の発音が他と異なる語はどれですか？

< 選択肢 > 1 Berg 2 **G**arten 3 täglich 4 Flugzeug

まず、太字の下線部の文字を確認します。出題の文字は **g/G**。

g/G の場合、語末および音節末での無声化(「ク」になる)が出題ポイントになるので、次に、この観点から選択肢の語を見てみます。

選択肢1の **g** は語末、2の **G** は母音の前、そして、3と4は接辞 **-lich** および **-zeug** と結びついた音節末の **g**。

選択肢1, 3, 4は無声化し、選択肢2 (**Garten**) が無声化しないので、**選択肢2**が正解。

過去7年間、どのような文字がどのような観点で出題されたかを以下にまとめてみました。なお、出題者は、直近のものを避けるのがふつうですので、そのようなことを考えながら、次回の出題を予測するのも面白いかも知れません。(コメ印 * のつづりは複数回の出題)

	<文字>	<出題観点>
18年 冬	-d, -dt, th	無声(語末・音節末)か有声か
	注: th は外来語のつづり (Theater [テアーター] など)	
夏	-ds, -tz, -z ; -dt	[ツ] でないものと [ツ]
17年 冬	g*	無声(語末・音節末)か有声か
夏	d	無声(語末・音節末)か有声か
16年 冬	-st-	[スト] か [シュト] か

- 注1：語頭の **st-** は [シュト] : **Stadt** (語中 : **Hauptstadt**)
 注2：語中でも、一部は [スト] : **gestern, meistens, Wurst**
 夏 **ie** [イエ] (外来語) か [イー] か
 注 : **Familie** は [ファミリー] でなく, [ファミリーエ]
 15年 秋 **ch** [ハ (ach, och, uch)] か [ヒ] か
 春 **t** [ツイ] (外来語) か [ティ/ト] か
 注 : **Nation** は [ナティオン] でなく, [ナツイオン]
 14年 秋 **j** [ジャ] (外来語) か [ヤ] などが
 注 : **Job** は [ヨップ] でなく [ジョップ]
 春 **b*** 無声 (語末・音節末) か有声か
 13年 秋 **eu, äu** [オイ] か [エウ] か
 注 : **Museum** は [ムゾイウム] でなく, [ムゼーウム]
 春 **b** 無声 (語末・音節末) か有声か
 12年 秋 **ei, ey, ai** [アイ] と読むかどうか
 春 **g** 無声 (語末・音節末) か有声か

《出題された文字 (つづり) とその単語一覧》

- b** **Erdbeere, Gabel, Gebäude** 語末 **halb**
 音節末 **ab-fahren**
 外来語 **Obst, Herbst** (b は [ブ])
 注 : **Februar** の b は [ブ] ([フェーブルアール])
d **Mode, Süden** 語末 **Ausland, Land**
 音節末 **Mäd·chen, Abend·essen**
g **Magen, gelb, fragen** 語末 : **Anzug, Mittag**
 音節末 : **Mittag·essen, täg·lich**
 注 : **regnen** の g は [グ] (「レーグネン」)
j **Jacke, jemand, Junge** 外来語 : **Job** (他に **joggen** など)
t **Bitte, Lektion, Theater, Thema**
 注1 : 語末の **-dt** は [ト] (**Stadt** [シュタット])
 注2 : **z, tz**, 語末の **-ds** は [ツ] (**kurz** [クルツ], **Satz** [ザツツ], **abends** [アーベンツ])

ei, ai, ay [アイ]	feiern, Mai, Bayern
ie [イー]	Briefmarke, Fieber, Miete
eu, äu [オイ]	heute, Leute
	Bäume, träumen
ch [ハ/ホ/フ]	einfach
	eigentlich, manchmal, rechts
s+母音 [ザ/ズィ/ズ/ゼ/ゾ]	Satz, Museum

1.2. アクセント (強勢)

例えば、以下の選択肢の中で、下線部の太字にアクセント (強勢) のある語はどれですか？

<選択肢> 1 Beruf 2 Gemüse 3 Universität 4 Kuchen

まず、下線部の太字の位置を確認します。すべて第1音節。

それぞれの語でアクセントが第1音節にあるかないかを確認します。選択肢1と2は、アクセントを担うことのない前つづり **Be-** と **Ge-** の語ですので、正解はこれら以外 (選択肢3か4か)。

次に、実際にそれぞれの語を発音してみて、第1音節にアクセントを置くと発音しにくい語を外します。かなり「いい加減な」基準ですが、特に判断に困った場合、それなりに有効性があると思っています。

選択肢3は、下線部の第1音節にアクセントを置いて発音すると、最後まで息が続きますか？選択肢4は？

したがって、90%の確率で、正解は、選択肢4 (**Kuchen**)。(辞書で確認したら、やはり正解でした！)

なお、設問を複雑にするために、以下のように、第2音節などに下線を引き、出題することもあります (正解は3)。

<設問> 下線部の太字にアクセント (強勢) がある単語はどれですか？

<選択肢> 1 Student 2 Japan 3 Tourist 4 Polizei

過去 7 年間、第 1 音節にアクセントがない語として出題された主なものを以下に挙げておきます。

< 名詞 > Apotheke, Büro, Konzert, Lektion, Marmelade, Menü
Moment, Physik, Polizei, Präsident, Problem, Tomate
Universität

< その他 > bekannt, interessant, natürlich, genug, gerade, sofort
zurück, zusammen ; gehören ; obwohl

< 接頭辞 be-, Be- > Beamter, Beziehung その他 : bekannt

< 接頭辞 ge-, Ge- > Gemüse, Getränk その他 : gefährlich

1.3 母音の長短

例えば、以下の選択肢の中で、下線部の太字の母音が短く発音される語はどれですか？

< 選択肢 > 1 Plan 2 Medizin 3 Zahn 4 Sonne

母音の長短の基本規則は、

①母音の後の子音字が 1 つのみ、あるいは **h** の場合、長母音

②母音の後ろの子音字が 2 つ以上の場合、短母音

なので、まず、下線の引かれた母音の後ろの子音字を数え、次に、**h** があるかどうかを確認します。

選択肢 1 と 2 は、母音の後ろの子音字は 1 つ、そして、選択肢 3 は、母音の後ろに **h** があるので、それぞれ前の母音は長母音。

他方、選択肢 4 は、母音の後ろに子音字 **n** が 2 つあるので、前の母音は短母音。

したがって、正解は選択肢 4 (Sonne)。

なお、過去 7 年間に¹⁾出題された語の第 1 音節について、母音の長短が上掲の規則①②が当てはまるかどうかを調査してみた結果、全 51 語のうち、

① (後ろの子音字が 1 つで) 規則通り長母音なのが 27 語

② (後ろの子音字が複数で) 規則通り短母音なのが 13 語

すなわち、8割近く(41語)が上掲の規則通りということになります。
それ以外のものは、以下の通りでした。

- ③上掲の規則に従えば長母音のはずなのに、短母音なのが6語
- ④上掲の規則に従えば短母音のはずなのに、長母音なのが1語
- ⑤長母音の場合も短母音の場合もある ch が4語

これまでに設問の対象になった母音の長短を、上掲の「母音の後ろの数(かず)」という規則のみに基づいて解答した場合、過去14回の出題のうち、8回が正解になります(正解率はほぼ6割!一応、合格ライン?)。

さらに、chが「決め手」になっている場合が4回あるので、上掲の基本規則とchの語をしっかりと覚えておければ、正解率は8割以上になります(14回のうちの12回)。

個人的には、複数の子音字の前で母音が長くなる単語、例えば **Februar**「2月」、**Montag**「月曜日」、**Obst**「果物」、**Publikum**「観衆」などをしっかり学ぶべきだとは思いますが、過去問の状況を見ると、この種の語を選択肢にする設問作りは難しいのかも知れません。

以下に、上掲の①②③④の主な出題語を一覧にして示しておきます。

- ①(後ろの子音字が1つなので)規則通りに長母音
Berlin, **Bibel**, **Brot**, **Ferien**, **Grad**, **Italienisch**, **Klima**, **Linie**, **Lowe**,
Medizin, **Öl**, **Plan**, **Problem**, **Salat**, **Tur**, **Übung**
bose, **groß**, **komisch**, **oben**, **rot**, **schon** ; **tun**
注(後ろにつづりh) : **Buhne**, **Zahn** ; **ruhig**
- ②(後ろの子音字が2つ以上なので)規則通りに短母音
Butter, **Eltern**, **Garten**, **Gesundheit**, **Hutte**, **Kopf**, **Mund**, **Sonne**,
Stunde, **Wasser**, **Wort** ; **toll**, **zwolf**
- ③(後ろの子音字が1つなので)規則に従えば長母音なのだが、短母音
Amerika, **Idee**, **Medikament**, **Natur**, **Paket**, **Papier**
kaputt ; **spazieren**

④ (後ろの子音字が 2 つなどで) 規則に従えば短母音なのだが, 長母音 **Montag** (注: Mond [モーント]「月」も長母音になりますね)

⑤ 長母音の場合も短母音の場合もある ch
長母音 **Buch, Sprache** 短母音 **Licht, Tochter**

1.4 文中で強調される語

例えば, 問い A に対する答え B の下線の引かれた語のうち, 通常最も強調して発音するのはどれですか?

問い A Was trinkt er gern?

答え B Er trinkt gern Wein.

<選択肢> 1 Er 2 trinkt 3 gern 4 Wein

まず, 「最も強調する語」= 「最も相手に伝えたい語」と考えます。

次に, 「最も相手に伝えたいもの」は, この設問の場合, 何かと考えます。「最も相手に伝えたいもの」は, 疑問詞 **was** に対応する部分, すなわち「彼の好きな飲み物」ですね。そして, それを表す語は **Wein**。

したがって, 正解は選択肢 4 (Wein)。

文アクセントの問題には, 主に, 以下の 2 つのタイプがあります。

① 質問文が**補足疑問文**, 最も強調される語が疑問詞に答える語
どの都市が (疑問詞) 好きですか?

— **ベルリン**が (疑問詞に答える語) 好きです。

② 質問文が**決定疑問文**, 最も強調される語が質問文と対比関係にある語
ケルンに行くの? — いいえ, (**ケルン**ではなく) **ボン**に行きます。

なお, 16 年夏期の出題は, 返答文が 2 つの文からなっていました。

A: 今日**テニス**をしますか?

B: いいえ, 今日は暑すぎます。**泳ぎ**に行きましょう。

このような場合, 返答文の最初の文で否定的に対応し (「暑すぎる」), 次の文で対比的に強調したい語を述べるという形式になります。

この設問では、文末の選択肢 4 が正解になるのは過去 7 年間 (14 回)のうち、7 回 (選択肢 3 が正解になるのは 4 回)。

このように、正解が文末の選択肢 4 に集中するのは、「最も伝えたい語は可能な限り文末の方に置く」という一般規則のためなのです (本シリーズ 5 級 30 頁参照)。ただし、4 級の場合、5 級の「10 回のうち 8 回」と比べると、少し少なくなっています。それは、以下に示すように、4 級の場合、語法の助動詞文を使ったり、前置詞あるいは平叙文の動詞を対比関係の語にすることができるからなのです。(答えの B の日本語をドイツ語に対応する形で区切ってみました。下線部が正解、上付き数字は順番。)

設問 1 A: 私はチケットをここで買うことができますか?

B: いいえ、ここでは買えません。

あなたは / ねばならない¹ / それを² / 入り口で³ / 買う⁴。

設問 2 A: ねえ、パパ、いつサッカーをしに行くの?

B: 今は、ニュース。

ニュースの¹ / あとに² / 行くよ³ / 私たちは⁴。

設問 3 A: まだ雪が降ってる?

B: いや、降ってない。

でも¹ / 今は² / 雨が降ってる³ / (非人称主語 es)⁴。

設問 1 の、語法の助動詞文の場合、一般動詞が文末に置かれるため、一般動詞を選択肢 4 にし、「最も伝えたい語」、すなわち正解を選択肢 4 以外 (3) にすることが可能になっていますね。

設問 2 の、「最も伝えたい語」が前置詞の場合、「最も伝えたい語」の後ろには少なくとも名詞が 1 つ存在するので、その名詞あるいはさらに後ろの語を選択肢 4 にし、「最も伝えたい語」の前置詞、すなわち正解を選択肢 4 以外 (2) にすることが可能になっていますね。

設問 3 の、「最も伝えたい語」が平叙文の定動詞の場合、定動詞は第 2 位と文法的に決められているため、定動詞の後ろの何らかの語を選択肢 4 にし、正解を選択肢 4 以外 (3) にすることが可能になっていますね。

なお、Oft ..? 「頻繁に?」と Nein, **jeden Tag!** 「否、毎日!」を対比させ、冠詞類 **jeden** を正解とする出題もありました。

2 大問2 動詞の形 (本書 27 頁～62 頁)

大問2は、**動詞の形**に関連するものです。具体的には、①平叙文および疑問文における人称変化形と②命令文における命令形が出題対象となります。通常、前者が4題、後者が1題です。また、出題される動詞は、基本的に、不規則動詞と話法の助動詞です。

2.1 人称変化形

例えば、次の設問文の場合、() にどの選択肢を入れますか？

<設問文> Mein Hund () immer auf dem Sofa.

<選択肢> 1 schlafen 2 schläft 3 schläfst 4 schläft

選択肢を確認します。動詞 (**schlafen** 「眠る」) の様々な形。

平叙文・疑問文の場合と命令文の場合とで、動詞の形の作り方が異なるので、まず、設問文がどちらの文なのかを確認します。

親称の命令文の特徴は主語がないこと、敬称の命令文の特徴は「不定詞 + Sie ...」という形になることです。上掲の設問文は、どちらの特徴も当てはまらないので、平叙文か疑問文。

次に、平叙文と疑問文の場合、動詞の形は、主語の人称と数(すう)に応じて異なるので、設問文の主語の人称と数を確認します。

主語は **Mein Hund** 「私の犬」。名詞が主語になる場合、3人称扱い、また、**Hund** は単数形。したがって、主語は3人称・単数。

3人称・単数の場合の人称語尾は -t なので、語尾が -t の選択肢を選びます。ただし、主語が **ihr** (2人称・親称・複数) の場合も人称語尾が -t になるので、この設問のように、両者が共に選択肢になっている場合(2と4)、どちらが3人称・単数なのかを見分ける必要が生じます。

消去法的に、主語が **ihr** かどうかでも判断できますが、不規則変化動詞の場合、3人称・単数が不規則変化、2人称・親称・複数は規則変化なので、**schläft** が規則変化、**schläft** が不規則変化。したがって、正解は選択肢4。設問文の意味は「私の犬はいつもソファの上で眠ります」。

<解答テクニック（不規則変化動詞が苦手な人のために）>

不規則変化動詞が出題された場合の「裏技」は、

①規則変化と不規則変化の主な相違は幹母音が変化するかどうか

②両者の人称変化語尾は同じ (e-st-t-en-t-en)

ということを最大限利用することです。すなわち、両者の語尾は同じなのですから、設問文の主語と選択肢の末尾にのみ神経を集中させ、

- ・主語が ich なら、末尾が -e の選択肢を
- ・主語が du なら、末尾が -st の選択肢を (*口調上の e も考慮し)
- ・ . . .

と唱えながら、選択肢を選べば、半分以上正解に近づいたことになります。

なお、この「裏技」で解答できない動詞も最近では出題されるようになってきます。それらは話法の助動詞とそれに準じるものですが、しかし、これらの動詞の特徴は、1人称・単数と3人称・単数で語尾が付かないこと「くらい」ですので、したがって、主語が1人称・3人称の単数の場合、語尾のないものを探せば、それが正解になります。

以下のA列は、これまでに
出題された動詞の主なもの、B列は、その場合の主語、C列は、B列の主語を見ながら、A列の動詞に付ける人称語尾を書いてもらうための下線です（語尾なしの場合は×）。次頁の正解欄には全書した人称変化形を載せておきましたので、主語と語尾の対応をしっかり自分のものにするため、是非、活用してください。作るのにかなり苦労したのです。（出題年度の数字は年度、Fは春、Sは夏、Hは秋、Wは冬を示します。――は自前の問題）

A (動詞)	B (主語)	C (語尾)	出題年度
1) antworten	die Lehrerin	_____	13F
2) arbeiten	ihr	_____	16S
3) finden	Sie	_____	――
4) kosten	die Tasche	_____	15H
5) reisen	du	_____ 注1	12H

6) tanzen	du	_____	注 1	15F
7) fahren	ihr	_____	注 2	12F
8) schlafen	die Katze	_____		17W
9) laufen	Klaus	_____	注 2	18S
10) halten	der ICE	_____	注 3	16W
11) essen	du	_____	注 1	14F
12) geben	die Lehrerin	_____		15F
13) helfen	du	_____		16W
14) lesen	ihr	_____	注 2	18S
15) nehmen	er	_____	注 2	14F
16) sehen	du	_____		14H
17) treten	Patrike	_____	注 3	17W
18) können	ich	_____	注 4	12F/12H
19) wollen	er	_____	注 4	15F
20) wollen	ihr	_____		15H
21) mögen	ich	_____	注 4	13H
22) mögen	ihr	_____		16W
23) mögen	jedes Kind	_____	注 4	18S
24) müssen	du	_____		18W
25) dürfen	man	_____	注 4	14H/17W
26) sollen	du	_____		13H
27) möchten	Paul	_____	注 4	16S
28) wissen	du	_____	注 1	12H/17S

< 正解 >

1) antwortet	2) arbeitet	3) finden	4) kostet	5) reist
6) tanzt	7) fährt	8) schläft	9) läuft	10) hält
11) isst	12) gibt	13) hilfst	14) lest	15) nimmt
16) siehst	17) tritt	18) kann	19) will	20) wollt
21) mag	22) mögt	23) mag	24) musst	25) darf
26) sollst	27) möchte	28) weißt		

注1：語幹末尾が *-s/-ß/-z* の動詞の2人称・単数の語尾は *-st* でなく、*-t* のみになる (*-sst* → *-st/-ßst* → *-ßt/-zst* → *-zt*)。特に、語幹末尾が *-s* の場合、3人称・単数と同形になるので (*reisen* : *du reist/er reist*)、要注意。

注2：3人称・単数と *ihr* の変化形は、共に *-t* なので、よくペアーで選択肢になる (上掲の設問文の選択肢 *schlaf**t*** と *schlä**ft*** や *geb**t***, *gib**t*** (<*geben*>))。語幹が変化していれば単数形、変化していなければ複数形。

注3：3人称・単数の場合、語幹末尾の *-t* と人称語尾の *-t* が重なることも (*-tt*)、*-t* のみになることもある (*tritt* < *treten* ; *hält* < *halten*)。

注4：話法の助動詞の1人称・3人称の単数は無語尾 (複数は規則変化)。

2.2 命令形

例えば、次の設問文の場合、() にどの選択肢を入れますか？

<設問文> **Kinder**, () **schon ins Bett!**

<選択肢> 1 **gehen** 2 **gehe** 3 **gehst** 4 **geht**

選択肢を確認します。動詞 (*gehen* 「行く」) の様々な形。

文の種類に応じて、動詞の形の作り方が異なるので、まず、設問文が一般的な文なのか命令文のどちらの文なのかを確認します。

冒頭の **Kinder** は、(主語ではなく、) コンマで区切られた呼びかけなので、設問文は、主語のない文、かつ動詞が文頭に置かれているので、親称の命令文ということになります (親称の命令文では命令形の動詞が文頭)。

親称の命令文の場合、命令の相手が一人なのか、二人以上なのかによって、形が異なるので、次に、命令の相手の人数を確認します。冒頭の呼びかけの **Kinder** は **Kind** 「子供」の複数形なので、命令の相手は二人以上。

したがって、() に入れる動詞は、語幹に *-t* を付ける親称・複数の命令形なので、正解は選択肢4 (**geht**)。設問文の意味は「子供たちよ、さあもう寝なさい!」。なお、親称の命令形の具体例は次頁を参照。

親称の命令文に対する敬称の命令文は、「不定詞+**Sie**...!」という形に固定されています。したがって、動詞の形が問題になることはありませんが、

他の文との見分け方を確認しておきましょう。

例えば、次の設問文の場合、() にどの選択肢を入れますか？

<設問文>() Sie mir bitte ein Kilo Bananen.

<選択肢> 1 Geben 2 Gebe 3 Gib 4 Gibst

選択肢を見ます。動詞 (geben 「与える」) の様々な形なので、まず、文の種類を確認します (9 頁で示した手順と少し異なります)。

- ①文末を見る。疑問符「?」がないので、疑問文ではない。~~(疑問文)~~
- ②動詞の入る () が文頭にあるので、平叙文ではない。~~(平叙文)~~
- ③主語 Sie があるので、親称の命令文ではない。~~(親称の命令文)~~

したがって、設問文は、敬称の命令文。敬称の命令形は、相手が一人でも、二人でも、不定詞と同じ形になるので、正解は選択肢 1 (Geben)。設問文の意味は「バナナを 1 キロいただけますか？」。

なお、命令文の場合でも、ピリオド (.) を打つこともあるのです。

過去 7 年間、命令文は、ほぼ毎回出題されています (ただし、敬称は計 2 回)。以下、出題された動詞を親称の命令形とともに挙げておきます。

①語幹に語尾 -[e] / -t を付ける動詞 (4 語) :

fahren	(fahr[e] / fahrt)	gehen	(geh[e] / geht)
schlafen	(schlaf[e] / schlaf[t])	warten	(warte / wartet)

②単数形で、語尾を付けず、幹母音 e を i / ie に変える動詞 (5 語)

essen	(iss / esst)	geben*	(gib / gebt)
nehmen	(nimm / nehmt)	sprechen	(sprich / sprecht)
vergessen	(vergiss / vergesst)		

なお、動詞 sein の命令形は、以下のようになります (出題回数は親称・単数が 1 回、敬称が 1 回)。

親称 (単数)	Sei mutig!	勇気を持て!
(複数)	Seid mutig!	(同上)
敬称	Seien Sie mutig!	勇気を持って!

大問3 名詞句の形 (本書 65 頁～108 頁)

大問3は、**名詞句の形**(前置詞句、疑問詞を含む)に関連するものです。具体的には、①名詞、②冠詞類、③前置詞、④人称代名詞、⑤疑問詞が出題対象になります。その際、何と言っても、重要なのは、名詞の文法上の性、数(すう)、格の3つです。

3.1 名詞、冠詞類、人称代名詞

出題形式には、選択肢が①名詞のもの、②冠詞類のもの、③人称代名詞のもの、の3種類があります。

3.1.1 名詞が選択肢

例えば、次の設問文の場合、()にどの選択肢を入れますか？

<設問文> Ich habe zwei ().

<選択肢> 1 Hund 2 Hundes 3 Hunde 4 Hunden

選択肢を見ます。名詞(Hund「犬」)の様々な形。これらの内から()に入れるのにふさわしいものを選べるかが出題ポイントになります。

名詞はすべて同じで、文法上の性は問題にならないので、次に、数(すう)について考えます。()の前に数詞zwei「2」があるので、()に入れる名詞は当然、複数形！

最後に、格について考えます。名詞の格は、動詞との関係で決まる場合と前置詞との関係で決まる場合があるので、()の前を見ます。前置詞はないので、格は、動詞との関係で決まることになります。

設問文の動詞habenは「(…を)持っている」という意味、結びつく名詞は4格(「…を」=「4格」)。

したがって、正解は複数・4格、すなわち(3格の特徴である-nの付いていない) 選択肢3 (Hunde)ということになります。設問文の意味は「私は2匹の**犬**を飼っています」。

単数形か複数形かの見分け方ですが、選択肢を見比べて、

①語尾が付いているものとないものがあれば、ある方が複数形

②ウムラウトのあるものとないものがあれば、ある方が複数形

だと思ってもよいと思います。

なお、複数形の場合、1格と4格が同形なので、3格の語尾 *-n* が決め手になる可能性が大ですね。ただし、名詞が選択肢になり、複数形が出題対象になったのは、過去7年間で3回のみ (Männer<Mann「男性」), Hunde (<Hund「犬」), Bücher (<Buch「本」)。

3.1.2 冠詞類が選択肢

選択肢になる冠詞類は、不定冠詞、定冠詞、所有冠詞、指示冠詞、疑問冠詞などです。この場合も、選択肢の内から () に入れるのにふさわしいものを選べるかが出題ポイントになります。

3.1.2.1 不定冠詞が選択肢

例えば、次の設問文の場合、() にどの選択肢を入れますか？

<設問文> Ich liebe () Mann.

<選択肢> 1 ein 2 eines 3 einem 4 einen

選択肢を見ます。不定冠詞 *ein* 「ある1人<1つ>の」の様々な形。

まず、() の後ろの名詞の数(すう)。

最初に数について考えるのは、複数形では、文法上の性の区別がなくなってしまうからです。しかし、残念！…不定冠詞の場合、後ろの名詞は、当然、単数形！

したがって、次に、文法上の性。名詞 *Mann* 「男性」の生物学上の性は「男性」。生物学上の性が「男性」ならば、文法上の性も「男性」。

最後に、格。() の前に前置詞はないので、格は、動詞との関係で決まることになります。設問文の動詞 *lieben* は「(…を)愛している」という意味なので、結びつく名詞は4格(「…を」=「4格」)。

したがって、正解は単数・男性・4格、すなわち選択肢4 (*einen*) ということになります。設問文の意味は「私はある男性を愛している」。

なお、「…を」＝「4格」という図式で格を決めることのできない動詞もあります（例えば、**treffen**は「(…に) 会う」ですが、結びつくのは3格でなく、4格）。したがって、日本語に頼り切らず、一つひとつしっかり学ぶのが「王道」です。「…を」＝「4格」, 「…に」＝「3格」などの図式は、いわば教える側の「善意のウソ」なのです（続きは、22頁23頁）。

3.1.2.2 定冠詞が選択肢

例えば、次の設問文の場合、() にどの選択肢を入れますか？

<設問文> Der Name () Hundes ist Taro.

<選択肢> 1 der 2 des 3 dem 4 den

選択肢を見ます。選択肢は、定冠詞 **der** 「その」の様々な形。

まず、() の後ろの名詞 **Hundes** の数 (すう) について考えます。しかし、何となく末尾の **-es** が「不気味」!

語尾 **-es** の付いた名詞は、通常、「男性」あるいは「中性」の単数・2格 (= 「…の」)。そう考えると、設問文も「その犬の名前はタローです」というように、意味の通った文になりますね。

したがって、正解は「男性」あるいは「中性」の単数・2格、すなわち選択肢 2 (**des**) ということになります。

3.1.2.3 所有冠詞が選択肢

例えば、次の設問文の場合、() にどの選択肢を入れますか？

<設問文> Ich kenne () Tante sehr gut.

<選択肢> 1 sein 2 seine 3 seinen 4 seiner

選択肢を見ます。選択肢は、所有冠詞 **sein** 「彼の」の様々な形。

まず、() の後ろの名詞の数 (すう)。名詞 **Tante** 「おば」は、3.1.1 で述べた「語尾なし、ウムラウトなし」という特徴で考えれば、ほぼ単数形 (実際またそうです! この基準、なかなかイケルのでは?)。

次に、文法上の性。生物学上の性と文法上の性は同一になるので、**Tante** の文法上の性も「女性」。

最後に、格。()の前に前置詞はないので、動詞との関係を見ます。設問文の動詞 **kennen** は「(…を)知っている」という意味なので、結びつく名詞は4格(「…を」=「4格」)。

したがって、正解は単数・女性・4格、すなわち選択肢2 (**seine**) ということとなります。設問文は「私は彼のおばさんのことをよく知っている」。

所有冠詞には、**mein, dein, sein, ihr, unser, euer, Ihr** の7つの形がありますが、出題回数は、以下のようになります。

sein	3回	ihr (彼女の)	3回
ihr (彼 [女] らの)	2回	euer	1回

では、次に、これらがどのような数(すう)と文法上の性と格で出題されているか? ですね。

- ①数は、9回のうち7回が単数形(したがって、単数形がほぼ毎回)
- ②文法上の性は、使われる名詞によってバラバラ(諦める!)
- ③格は、4格が9回のうち4回、3格が9回のうち5回。

したがって、最も効率的な対策は、**sein** と **ihr** の3格と4格の単数形をしっかり覚えておくことだと言えます。

3.1.2.4 指示冠詞などが選択肢

例えば、次の設問文の場合、()にどの選択肢を入れますか?

<設問文> () **Kleid ist sehr schick.**

<選択肢> 1 **Dieser** 2 **Dieses** 3 **Diesem** 4 **Diesen**

選択肢を見ます。選択肢は、指示冠詞 **dieser** 「この」の様々な形。

まず、名詞の数(すう)。名詞 **Kleid** 「ワンピース」は、3.1.1で述べた「語尾なし、ウムラウトなし」という特徴を考えれば、ほぼ単数形。

次に、文法上の性。名詞 **Kleid** 「ワンピース」の文法上の性は...?? (こっそり辞書を見たら、「中性」! <著者注: 文法上の性はどのように覚えていたらよいのか? とよく質問されるのですが、私たちも、今のところ、これといったよい案はないのです。スママセン! >)

最後に、格。()の前に前置詞はないので、動詞との関係を見ます。設問文の動詞 **ist** (<sein) は「(…は) ~である」という文を作るので、名詞 **Kleid** は主語 (= 「1 格」)。

したがって、正解は単数・中性・1 格、すなわち選択肢 2 (**Dieses**) ということになります。設問文は「このワンピースはとてもシックだ」。

なお、この設問文のように、名詞が文中に 1 つしかない場合、その名詞は主語 (1 格) と考えてもよいと思います。他方、3.1.2.2 のように、名詞が 2 つ並んでいて、その間に () がある場合、2 格の形が問われていると考えてよいと思います。女性名詞 (**Kirche** 「教会」) と中性名詞 (**Kind** 「子供」) の 2 格がそれぞれ 1 回出題対象になっています。

< 類例 > **der Turm** (dieser) Kirche この教会の塔
der Vater (dieses) Kindes この子供の父親

dieser 以外は、**jeder** が一回、**welcher** も一回出題されているだけです。

jeden Tag 毎日 (副詞的 4 格)

Welcher Tag ist es heute? 今日は何日ですか? (日付を尋ねる表現)

3.2 前置詞句

設問文の前置詞の後の () の中に入れるのにふさわしい冠詞類の形を選べるかどうかが出題ポイントになります。結びつく名詞の格が前置詞によって決まるという点が 3.1 と異なります。

例えば、次の設問文の場合、() にどの選択肢を入れますか?

< 設問文 > Er fährt mit () **Fahrrad** zur Uni.

< 選択肢 > 1 **der** 2 **des** 3 **dem** 4 **den**

選択肢を見ます。選択肢は、定冠詞 **der** 「その」の様々な形

まず、名詞の数 (すう) について考えます。名詞 **Fahrrad** 「自転車」は、「語尾なし、ウムラウトなし」(3.1.1) という特徴を考えれば、ほぼ単数形。

次に、文法上の性…?? (こっそり辞書を見たら、「中性」!)

最後に、格。()の前を見ると、前置詞 *mit* があるので、前置詞 *mit* 「…といっしょに」と結びつく格を考えます。3 格。

したがって、正解は単数・中性・3 格、すなわち選択肢 3 (*dem*) ということとなります。設問文の意味は「彼は自転車で大学に通う」。

過去 14 回のうち、出題対象になった前置詞は、以下の通りです。

《3 格支配》	(3 回)	<i>aus dem Zimmer</i>	部屋の中から
		<i>mit dem Bus</i>	バスで
		<i>nach dem Frühstück</i>	朝食の後で
《4 格支配》	(3 回)	<i>durch den Park</i>	公園を通過して
		<i>ohne ein Wort</i>	一言も話さずに
《3・4 格支配》	(8 回)	<i>an die Wand</i>	壁際へ
		<i>auf den Tisch</i>	テーブルの上へ
		<i>in die Stadt</i>	町へ
		<i>in das Uni-Café</i>	大学の喫茶店へ
		<i>in die Berge</i>	山々の中に
		<i>in allen Restaurants</i>	すべてのレストランで
		<i>über die Brücke</i>	橋を越えて
		<i>vor dem Hauptbahnhof</i>	中央駅の前で

注：前置詞と結びつく疑問冠詞も出題されています。

In welcher Stadt? どの町で? (3 格; 場所)。

3.3 人称代名詞

設問文の () の中に入れるのにふさわしい人称代名詞を選べるかどうかが出題ポイントになります。人称代名詞の、人を表す用法と先行の名詞を受ける用法 (3 人称) が出題対象になるので、両者を分けて考えます。

3.3.1 人を表す人称代名詞

例えば、次の設問文の場合、() にどの選択肢を入れますか?

<設問文> Liebst du () nicht?

<選択肢> 1 ich 2 mir 3 mich 4 mein

選択肢を見ます。選択肢は、1 人称・単数の、格が異なる人称代名詞「私が／に／を」と所有冠詞「私の」。なお、1 人称・2 人称の人称代名詞は、常に人を表しますね。

人称は 1 人称で、数(すう)が単数だとすると、残る問題は、格のみ。人称代名詞の場合も、格は、前置詞との関係で決まる場合があるので、() の前を見ます。前置詞はないので、動詞との関係で決まることになります。

設問文の動詞 *lieben* は「(…を) 愛する」という意味なので、結びつく名詞は 4 格(「…を」=「4 格」)になります。

したがって、正解は 4 格の人称代名詞、すなわち選択肢 4 (*mich*)。設問文の意味は「君はぼくのことを愛していないの?」。

なお、*Machen wir...!*「…しよう!」というような、主語に *wir* を入れる提案表現が出題されたことも、また、前置詞 *mit* と結びつく人称代名詞(3 格)が選択肢になったこともあります。

Lernen *wir* mit Spaß Japanisch! 日本語は楽しんで学びましょう!

Ich gehe mit *ihm* ins Kino. 私は彼と映画を見に行きます。

3.3.2 先行文の名詞を受ける人称代名詞(3 人称)

ドイツ語の 3 人称の人称代名詞は、先行文で使われた名詞の代わりとして使うことができます。その際、文法上の性、数(すう)は、代わりになる名詞のものを引き継ぎ、格は、後続文中での意味役割に基づいて決まります。

例えば、次の設問文の場合、() にどの選択肢を入れますか?

<設問文> Ihre Tasche ist neu. Ich finde () schick.

<選択肢> 1 ihn 2 sie 3 es 4 den

選択肢を見ます。選択肢は、3 人称の人称代名詞・4 格(あるいは 1 格)。まず、() を無視して、設問文を訳してみると、「彼女のバッグは新

しい。私はとてもシックだと思います」。()に入る人称代名詞は、先行文の名詞 **Tasche** を受けると考えるのが最も自然ですね。

名詞 **Tasche** の文法上の性は「女性」、数(すう)は単数。

残るのは格。設問文の動詞 **finden** は「(…を) ～と思う」という意味なので、結びつく名詞は4格(「…を」=「4格」)になります。

したがって、正解は女性・単数・4格の人称代名詞、すなわち選択肢2 (**sie**)。設問文の意味は「彼女のバッグは新しい。私は(それを)とてもシックだと思います」。

3.4 疑問詞

設問文の()の中に入れるのにふさわしい疑問詞を選ぶかどうかが出題ポイントになります(疑問文については24頁25頁も参照)。

例えば、次の設問文の場合、()にどの選択肢を入れますか？

<設問文>() **gehört das Fahrrad?**

<選択肢>1 **Wer** 2 **Wem** 3 **Wo** 4 **Wann**

選択肢を見ます。選択肢は、疑問詞。**wer** は「誰が」、**wem** は「誰に」、**wo** は「どこ」、**wann** は「いつ」。

まず、疑問詞の場合も、()に入れるにふさわしいものが動詞との関係で決まる場合と前置詞との関係で決まる場合があるので、()の前を見ます。前置詞がないので、()に入れるのにふさわしいものは動詞との関係で決まることになります。

設問文の動詞 **gehören** は「(…は～に) 属する」という意味なので、結びつくのは1格(主語)と3格(目的語)。文中の名詞 **Fahrrad**「自転車」は1格(主語)なので、()に入れるのにふさわしいものは3格(目的語)ということになります。

選択肢で3格目的語になれるのは、**wem** のみ。したがって、正解は選択肢2 (**Wem**)。

なお、上掲の設問は、動詞との関係で適切な疑問詞が決まるものですが、

文脈的な観点から適切な疑問詞を選ばせる出題もありますので、具体例で解答の手順を確認することにしましょう。

例えば、次の設問文の場合、() にどの選択肢を入れますか？

<設問文>() geht ihr in die Disco?

<選択肢> 1 Wen 2 Woher 3 Wohin 4 Wann

選択肢を見ます。選択肢は、疑問詞。wen は「誰を」、woher は「どこから」、wohin は「どこに」、wann は「いつ」。

まず、動詞 gehen と結びつく語句を確認します。gehen は、「(…は～に) 行く」という意味なので、主語と方向の語句と結びつきます。設問文の ihr は主語、in die Disco は方向の語句。

したがって、動詞との関係だけでは、() に入れるふさわしい語を選ぶことができないので、次に、文脈的観点からどの選択肢が () に入れるのにふさわしいかを考えます。

選択肢(「誰を」、「どこから」、「どこに」、「いつ」)を一つひとつ「君たちはディスコに行くの?」という文と結びつけて考えると、文脈的に結びつけることが可能なのは Wann のみですね。

したがって、正解は選択肢 4 (Wann)。設問文は「いつ君たちはディスコに行くの?」。

上掲の設問では、前置詞句の場合を除き、動詞と名詞句の結びつきが重要なポイントになっているので、これまでに出题された動詞のうち、3格あるいは4格と結びつく主なものを以下にまとめて示しておきます。

①3格と結びつく(最後の2つは、日本語訳が「…に」にならないもの)

danken …に感謝する gefallen …に気に入っている

schmecken …にとっておいしい

gehören …のものである helfen …の手助けをする

②3格+4格と結びつく

kaufen …に～を買う schenken …に～を贈る

schicken …に～を送る

③4 格と結びつく（最後の3つは、日本語訳が「…を」にならないもの）

besuchen	…を訪れる	bezahlen	…を払う
haben	…を持っている	kennen	…を知っている
lernen	…を学ぶ	sehen	…を見る
verstehen	…を理解する	anrufen	…に電話をかける
fragen	…に尋ねる	treffen	…に会う

大問4 語順（本書119頁～131頁）

大問4は、**語順**に関連するものです。具体的には、前置詞句や熟語に関連するものもありますが、①文の種類に基づく定動詞の位置、②話法の助動詞文での動詞の位置、③目的語（3格・4格）としての名詞と人称代名詞の語順、④否定詞の位置が主な出題対象になります。

4.1 文の種類に応じた定動詞の位置

一つ目は、文の種類に応じた人称変化した形の動詞（定動詞）の位置。

4.1.1 平叙文

例えば、次の設問の場合、（ ）の語は、設問文の①から④の数字で示したどこに挿入すると、文が完成しますか？（本来、文頭に置く語も、小文字で表記してあります）

(schenke)

① zum ② Geburtstag ③ ich ihr einen Ring ④.

まず、（ ）内の語を見ます。schenke は、設問文の主語 ich に対応する動詞 **schicken** 「贈る」の人称変化した形（定動詞）。

次に、定動詞の位置は、平叙文、疑問文および命令文に応じて異なるので、設問文がそれらのどれに当たるかを考えます。

a) 文末の句読点を見る。疑問符でなく、ピリオドが打たれているので、平叙文か命令文（命令文でも、ピリオドを打つこともある）。

b) 主語を見る。親称の命令文ならば、主語がなく、敬称の命令文ならば、主語は **Sie**。しかし、設問文には、**ich** というれっきとした主語があるので、命令文ではなく、平叙文。

平叙文の場合、定動詞は、「意味的まとまり」を1単位と数えた2番目の位置（第2位）になりますから、冒頭の前置詞句 **zum Geburtstag** 「誕生日に」の後ろに入れることになります。

したがって、正解は③の位置。設問文の意味は「誕生日に私は彼女に指輪を贈ります（Zum Geburtstag *schenke* ich ihr einen Ring.）」。

4.1.2 決定疑問文

例えば、次の設問の場合、（ ）の語は、設問文の①から④の数字で示したどこに挿入すると、文が完成しますか？

(schenkst)

① du ② mir ③ etwas ④ zum Geburtstag?

まず、（ ）内の語を見ます。**schenkst** は、設問文の主語 **du** に対応する定動詞。

定動詞の位置は、文の種類に応じて異なるので、次に、文の種類を考えます。

設問文は、末尾に疑問符（?）があるので、文句なく疑問文。ただし、疑問詞がないので、イエスかノーかを尋ねる決定疑問文ということになります。決定疑問文における定動詞の位置は文頭。

したがって、正解は①の位置。設問文の意味は「君は僕の誕生日に何かプレゼントをくれる？（*Schenkst* du mir etwas zum Geburtstag?）」。

4.1.3 補足疑問文

例えば、次の設問の場合、（ ）の語は設問文の①から④の数字で示したどこに挿入すると、文が完成しますか？

(schenken)

① was ② wir ③ ihr ④ zum Geburtstag?

まず、()内の語を見ます。**schicken**は、形の上では、設問文の主語**wir**に対応する定動詞とも、助動詞と結びつく不定詞とも解釈できますが、助動詞らしきものがないので、定動詞。

次に、文の種類を考えます。設問文は、末尾に疑問符(?)があり、かつ冒頭に疑問詞**was**「何が/何を」があるので、補足疑問文。補足疑問文における定動詞の位置は第2位(ちなみに疑問詞は文頭)。

したがって、正解は②の位置。設問文の意味は「私たちは彼女の誕生日に何をプレゼントしようか? (**Was *schicken* wir ihr zum Geburtstag?**)」。

4.1.4 命令文

例えば、次の設問の場合、()の語は、設問文の①から④の数字で示したどこに挿入すると、文が完成しますか?

(**sprechen**)

① **Sie** ② **bitte** ③ **etwas** ④ **langsamer!**

まず、()内の語を見ます。**sprechen**「話す」は、形の上では、設問文の主語**Sie**に対応する定動詞とも、助動詞と結びつく不定詞とも解釈できますが、助動詞らしきものがないので、定動詞。

次に、文の種類を考えます。設問文は、末尾に感嘆符(!)があり、かつ、主語**Sie**があるので、「…してください!」という敬称の命令文。敬称の命令文における定動詞の位置は文頭になります。

したがって、正解は①の位置。設問文の意味は「どうぞもう少しゆっくり話してください! (***Sprechen* Sie bitte etwas langsamer!**)」。

動詞が文頭にあり、その後ろに主語がある点で、敬称の命令文と決定疑問文の語順は同一ですが、命令文の場合は文末に感嘆符かピリオド(.), 疑問文の場合はかならず疑問符を打ちますので、末尾を見るだけでも、両者を区別することができます(主語を表示しない親称の命令文は12頁を参照)。

注1: (a)のように、並列の接続詞**aber**「しかし」などの文での定動詞の

位置、(b)のように **und** の後ろの同一主語が省略され場合の定動詞の位置も出題されたことがあります。

(a) **Es schneit, aber es (ist) nicht kalt.**

雪が降っているが、寒くはない。

(b) **Er wohnt in Köln und (studiert) Musik.**

彼はケルンに住んでいて、音楽を専攻しています。

なお、文頭に接続副詞 **deshalb** 「そのため」を置いた設問文も出題されたことがあります。定動詞は接続副詞の後ろに置きます。

Hans ist krank, deshalb (kommt) er heute nicht.

ハンスは病気です。そのため、きょうは来ません。

注 2：主語の位置が出題されたこともあります。しかし、主語は、通常、文頭に置かれますが、文中にも置かれ、規則はかなり複雑になるので、4級受験の場合は、「主語は定動詞の前か後ろ」と覚えておくだけでよいと思います。

注 3：ドイツ語文の語順規則として、「動詞と関係が深いものほど、すなわち動詞と熟語的に結びつくものほど文末に置かれる」というものがあります。したがって、例えば **Autofahren** 「車を運転する」、**Klavierspielen** 「ピアノを弾く」 **nach Hause gehen** 「帰宅する」の **Auto**, **Klavier**, **nach Hause** などは文末に置かれます。

Meine Frau fährt auch sehr gern Auto.

私の妻もドライブがとても好きです。

Mein Mann spielt fast jeden Tag Klavier.

私の夫はほぼ毎日ピアノを弾きます。

注 4：疑問詞のバリエーションとして年齢を尋ねる **wie alt ...?** 「何歳?」、**wie viele ...?** 「いくつの…?」、**was für ein ...?** 「どんな…?」も出題されたことがあります。なお、決定疑問文は、このところ出題されていません。

4.2 話法の助動詞の文

二つ目は、話法の助動詞文での話法の助動詞とそれと結びつく一般的な動詞（本動詞）のそれぞれの位置。

4.2.1 話法の助動詞

例えば、次の設問の場合、()の語は、設問文の①から④の数字で示したどこに挿入すると、文が完成しますか？

(muss)

① am Montag ② ich ③ zum Arzt ④ gehen.

まず、()内の語を見ます。muss は、設問文の主語 ich に対応する話法の助動詞 müssen 「…しなければならない」の人称変化形(定動詞)。

定動詞の位置は、平叙文、疑問文、命令文に応じて異なるので、次に、設問文がそれらのどれかと考えます。文末には、句読点のピリオドがあり(疑問文ではない)、また、ich というれっきとした主語があるので(命令文ではない)、設問文は、残った平叙文ということになります。

平叙文における定動詞(この設問では話法の助動詞)の位置は第2位、すなわち、冒頭の am Montag 「月曜日に」の後ろになります。

したがって、正解は②の位置。設問文の意味は「月曜日に私は医者に行かなければなりません (Am Montag **muss** ich zum Arzt gehen.)」。

4.2.2 本動詞

例えば、次の設問の場合、()の語は、設問文の①から④の数字で示したどこに挿入すると、文が完成しますか？

(sprechen)

Wir ① können ② noch nicht ③ gut Deutsch ④.

まず、()内の語を見ます。sprechen 「話す」は、形の上では、設問文の主語 wir に対応する定動詞とも、助動詞と結びつく不定詞とも解釈できますが、設問文にはすでに話法の助動詞 können があるので、不定詞。

次に、文の種類を考えます…となるところですが、話法の助動詞と結びつく本動詞の位置は、平叙文でも、疑問文でも、ともかく文末。

したがって、正解は④の位置。設問文の意味は「私たちはまだ上手にドイツ語を話すことができません (Wir können noch nicht gut Deutsch **sprechen**.)」。

注：挿入する語として（ ）の中に書かれた動詞が本動詞ならば，正解は文末，話法の助動詞ならば，4.1 で解説した定動詞の語順規則に基づいた位置が正解になりますので，話法の助動詞 **dürfen, können, möchten, müssen, sollen, wollen** の変化形をしっかりと覚えておくことが何よりも重要です。過去 11 回，話法の助動詞が出題対象になりましたが，話法の助動詞の位置が問われたのが 4 回，本動詞の位置が問われたのが 7 回。

4.3 人称代名詞と名詞および 3 格と 4 格の語順

三つ目は，人称代名詞と名詞および 3 格と 4 格の語順。

ドイツ語では，通常，人称代名詞と名詞の目的語が並ぶ場合，「人称代名詞→名詞」という語順に，また，3 格と 4 格の目的語が並ぶ場合，「3 格→4 格」という語順になります。

3 格と 4 格と人称代名詞と名詞の 4 つが絡み合った場合の前後関係が出題ポイントになります。

4.3.1 人称代名詞と名詞

例えば，次の設問の場合，（ ）の語は，設問文の①から④の数字で示したどこに挿入すると，文が完成しますか？

(dir)

Heute ① schicke ② ich ③ ein Paket ④.

まず，（ ）内の語を見ます。dir「君に」は単数・3 格の人称代名詞。

次に，設問文をそのまま訳してみると，「きょう／送ります／私は／小包を」。したがって，dir は動詞 **schicken** の 3 格目的語だとわかります。

最後に，では，どこに dir を入れると，文が完成するかを考えます。

3 格と 4 格が並列した場合の基本語順は「3 格→4 格」，人称代名詞と名詞が並列した場合の基本語順は「人称代名詞→名詞」。

したがって，この規則を当てはめると，3 格の人称代名詞 dir は 4 格の名詞 **ein Paket** の前，すなわち，正解は③の位置ということになります。設問文の意味は「きょう私は（君に）小包を送ります（**Heute schicke ich**

dir ein Paket.)」。日本語としても、この語順が最も自然と思いませんか？

上掲の設問では、人称代名詞を挿入させる場合のもののようですが、以下のよ
うに、名詞を挿入させる場合もあります。

(einen Hund)

A : Was schenkst du deinem Sohn?

B : ① ich ② schenke ③ ihm ④.

B 文に挿入する Hund「犬」は 4 格の名詞、B 文の、すでにある ihm「彼
に」は 3 格の人称代名詞。

この場合も、「3 格と 4 格の基本語順 (「3 格→4 格」)、人称代名詞と名
詞の基本語順 (「人称代名詞→名詞」) を当てはめると、名詞 Hund の位置
は ihm の後ろになります。

したがって、正解は④の位置。設問文の意味は「A : 息子さんに何を贈
るのですか?—B: 彼には犬を贈ります (Ich schenke ihm einen Hund.)」。

注 : 以上の設問は、「3 格 (人称代名詞) → 「4 格 (名詞)」というもので
すが、以下のように、3 格の名詞が 4 格の人称代名詞の後ろに置かれる
こともあります (「4 格 (人称代名詞) → 「3 格 (名詞)」)。

A : Wem schenkst du die Katze? 誰にその猫を贈るのですか?

B : Ich schenke **sie meiner Tochter**. 娘に贈ります。

これは、「3 格→4 格」という規則に反していますが、語順に関するもう
1 つの、『「旧情報」と「新情報」が並列する場合、「旧情報→新情報」と
いう語順になる』という、基本中の基本とも言うべき規則に基づくもの
なのです (sie=旧情報, meiner Tochter=新情報)。上例の 2 つの設問
文もこの規則に合致していますね。なお、詳細は、在間進著『リファレ
ンス・ドイツ語』(郁文堂) の 263 頁を参照してください。

4.3.2 人称代名詞と人称代名詞

名詞と代名詞が並ぶ場合、4.3.1 で述べたように、「3 格→4 格」が基本

的語順ですが、どちらも人称代名詞の場合、「3格→4格」ではなく、「4格→3格」になります。具体例を見ることにしましょう。

例えば、次の設問の場合、()の語は、設問文の①から④の数字で示したどこに挿入すると、文が完成しますか？

(sie)

Wenn du noch andere Fotos hast, ① schick ② mir ③ sofort ④!

まず、()内の語を見ます。sieは、単数・女性あるいは複数の、1格か4格の人称代名詞。

次に、設問文をこのまま訳してみると、「もし／君が／まだ別の／写真も／持っている／(ならば)／送ってくれ(命令形)／私に／すぐに／！」。

したがって、文脈的に、挿入する語sieは、wenn文中のFotos(＜Foto「写真」)を受ける複数・4格の人称代名詞であるとわかります。

3格と4格の両方が人称代名詞の場合(すなわちmirとsie)、語順は「4格→3格」になるので、正解は②の位置ということになります。

4.4 否定詞

四つ目は、否定詞nichtとkeinの位置。ただし、否定冠詞keinの位置は、名詞の前と文法的に決められているので、nichtの位置が主な出題ポイントになります。

例えば、次の設問の場合、()の語は、設問文の①から④の数字で示したどこに挿入すると、文が完成しますか？

(nicht)

Er ① kann ② gut Klavier ③ spielen ④.

まず、()内の語を見ます。nichtは、後ろの語句を「…でない」と否定する副詞。否定したい語句の前に置くというのが原則です。そこで、(nichtを無視して)設問文をこのまま訳してみると、「彼は／できる／上手に／ピアノを／弾くことが」。

次に、この文を否定形にする場合、否定に対象になるのは何かを考えま

す。この文の否定形は、日本語的に言うと、「彼は／ピアノが／上手では／ない」ということですから、否定されるのは「上手に」に対応する **gut** です。ね。

したがって、正解は②の位置。

消去法的に言っても、①の位置は定動詞第 2 位の原則に反するのでダメ、③の位置は **Klavier spielen** という熟語的結びつきを分断するのでダメ、そして、④の位置は「話法の助動詞と結びつく本動詞は文末」という規則に反するので、ダメ。消去法でも、正解はやはり②の位置ということになります。

上掲の設問は、**nicht** 単独の位置が出題対象になっていますが（出題回数 2 回）、以下のように、句例的否定表現が出題されることもあります。

(A) (**nicht**)

Heute ① fahren wir ② nach Köln ③, sondern nach Wien ④.

(B) (**sondern**)

Sie spricht ① nicht nur ② Englisch, ③ auch ④ Japanisch.

(A) の **sondern** は、**nicht** と結びつき、**nicht ... , sondern** ～「…ではなく、～」という句例を作り、**sondern** の後ろの語句と対比関係にある語句を否定するものです。**sondern** の後ろの語句 (**nach Wien**) と対比関係にある語句は **nach Köln**。したがって、**nicht** は **nach Köln** の前、すなわち、正解は②の位置ということになります。設問文の意味は「きょう私たちはケルンではなく、ウィーンに行きます」。

(B) の **nicht nur** は、**nicht nur ... , sondern auch** ～「…だけではなく、～も」という句例を作り、**nicht nur** の後ろの語句に同種のを追加するものです。**nicht nur** の後ろの語句 (**Englisch**) に追加される同種の語句は **Jananisch**。したがって、**sondern** は **auch** の前、すなわち、正解は③の位置ということになります。設問文の意味は「彼女は英語だけでなく、日本語も話します」。

これまでの出題回数は、(A) 2 回、(B) 1 回です。

注：kein の出題回数は 2 回。文中に名詞が 2 つあれば、否定の対象はどちらなのかを考える必要がありますが、2 回とも名詞は 1 つでした。

4.5 前置詞の例外的用法、熟語表現など

上掲 (4.1~4.4) の設問は、文字通り、「文の完成」に関するものでしたが、時には、以下の (A) のような、前置詞の例外的な使い方 (副詞との結合) や (B) のような、熟語表現の語順などが出題されます。「定番」にはなっていませんが、一応、この種の出題にも、心の準備だけはしておいた方がよいと思います。

(A) (seit)

① vorgestern ② ist er ③ wieder ④ zu Hause.

(B) (noch)

Kannst ① du ② das ③ bitte ④ einmal sagen?

設問 (A) の () 内の seit は「…以来, …前から」という意味の前置詞。一部の前置詞は、副詞とも結びつくのです。正解は①の位置。設問文の意味は「一昨日より彼は再び自宅におります」。

設問 (B) の () 内の noch は本来「まだ」という意味の副詞。einmal と結びつき、noch einmal 「もう一度」という熟語表現を作るので、正解は④の位置。設問文の意味は「もう一度言ってくれる？」。

注 1：seit と疑問副詞の結合 (たとえば seit wann 「いつから?」) や複数形の名詞との結合 (例えば seit drei Jahren 「3 年前から」) も出題されています。

なお、2 格の名詞句の位置を問う設問が出題されたこともあります (修飾する語句の後ろ; 3.1.2.2 も参照)。

注 2：以下のような熟語表現を完成させる設問も出題されたことがあります。

nicht mehr もう…ない zu Abend essen 夕食を食べる
als+名詞 …として (例えば als Lehrer 「教師として」)